

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	地元学
科目基礎情報						
科目番号	2Z013			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	創造工学科			対象学年	2	
開設期	前期			週時間数	前期:1	
教科書/教材	必要に応じて資料としてプリントを配付する.					
担当教員	野口 卓朗,近藤 満,南 明宏,石川 洋平,松岡 高弘,佐土原 洋平					
到達目標						
1. 地元の歴史・文化・産業等、地元に関わる様々なことが理解できる. 2. 地元に関わる課題に対して、創意工夫しながら、チームで取組み、解決策が提案できる. 3. 地元に関わる課題において、工夫しながら、チームでプレゼンテーションができる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地元の歴史・文化・産業等、地元に関わる様々なことを理解でき、地元の特徴を説明できる.		地元の歴史・文化・産業等、地元に関わる様々なことを理解できる.		地元の歴史・文化・産業等、地元に関わることを理解できない.	
評価項目2	地元に関わる課題に対して、創意工夫しながら、チームで取組み、具体的な解決策を提案できる.		地元に関わる課題に対して、創意工夫しながら、チームで取組み、解決策を提案できる.		地元に関わる課題に対して、創意工夫が足らず、解決策を提案できない.	
評価項目3	地元に関わる課題において、工夫しながら、チームで分かりやすいプレゼンテーションができる.		地元に関わる課題において、工夫しながら、チームでプレゼンテーションができる.		地元に関わる課題において、工夫しながら、チームでプレゼンテーションができない.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-4						
教育方法等						
概要	有明高専が位置する地元の大牟田・荒尾には日本の近代化を支えた三池炭鉱がかつて存在しており、宮原坑や万田坑等の遺構は世界文化遺産に登録されています。平成9年に三池炭鉱は閉山しました。閉山後の地元の衰退は顕著であり、超高齢化社会の到達が間近に控えています。このような状況に対して、大牟田市・荒尾市ではより良い社会の構築のために様々な事業や提案を行って、地元を活性化しようとがんばっています。 本科目は有明高専生である皆さんに、地元が抱える様々な問題や課題を見つけ、その解決のための工夫を提案してもらい、技術者として地元に対する理解を深めてもらうことを目的としています。 また、この科目をとおして皆さんが専門分野への関心をより強く意識することができそうな橋渡し役としてもこの科目を位置付けています。本科目はSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に関わる内容を学びます。 *本科目は「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（リテラシーレベル）」構成科目です。（「授業の属性・履修上の区分」では文字制限の都合上「AI関連」と区分しています）					
授業の進め方・方法	この科目ではクラスの5～7名で1チームをつくります（1クラスで6～8チームが編成されます）。そのチームで作業を進めます。チームで協力して課題解決に取り組むことができることが大切です。 また、作業のために必要に応じて授業時間外での学習を行うことがあります。 授業では、外部講師を含めた講師から、地元の歴史・文化・産業等に関わる講演を聴いて、地元に関する基礎的な知識を身に付けます。各講演の内容をまとめたレポートを提出してください。そして、各講演の内容について、課題を見出し、解決のための提案を導き出すため、講演後、チームに分かれて研究を進め、チーム毎に発表を行います。 評価は、各チームの ①課題解決のための提案の内容、②発表の内容 で行います。①と②それぞれを5段階で評価し、3以上を合格とします。					
注意点	普段から地元の大牟田・荒尾に関する情報に気を留めておいてください。新聞等にも地元に関わる記事が掲載されるので、それらにも目をおしてください。そして、記事を集めておいてください。 チームでの作業が中心になるので、各学生のチーム内での役割を確実に果たして、他人まかせにしないでください。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
☒ A I 関連						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスと講義1		本科目の趣旨について理解できること.	
		2週	講義2		さまざまな情報の受け取り方、講演や講義のメモの取り方	
		3週	講演A		地元の現状・地元行政等の取組、地元の産業等の現状について理解できること.	
		4週	講演Aのまとめ		講演の内容をまとめることができること.	
		5週	グループ研究		チームで活動できること.	
		6週	講演B		地元の現状・地元行政等の取組、地元の産業等の現状について理解できること.	
		7週	講演Bのまとめ		講演の内容をまとめることができること.	
		8週	グループ研究		チームで活動できること.	
	2ndQ	9週	講演C		地元の現状・地元行政等の取組、地元の産業等の現状について理解できること.	
		10週	講演Cのまとめ		講演の内容をまとめることができること.	
		11週	グループ研究		チームで活動できること.	
		12週	講演D		地元の現状・地元行政等の取組、地元の産業等の現状について理解できること.	
		13週	講演Dのまとめ		講演の内容をまとめることができること.	
		14週	グループ研究		チームで活動できること.	
		15週	全体発表会		発表できること、発表内容が理解できること.	
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前5,前8,前11,前14	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前4,前5,前7,前8,前10,前11,前13,前14	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前4,前5,前7,前8,前10,前11,前13,前14	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前5,前8,前11,前14	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	前5,前8,前11,前14	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	前5,前8,前11,前14	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0